

一般質問

利便性の向上は周辺道路の整備から



市議会

岡崎 嘉一

問 県道より蒲生スマートーIC緑地への進入路の確保や今後の活用計画は。

また、スマートーICに通じる市道桜川石塔線は10年以上計画が凍結されているが、今後の見通しは。

県道桜川西中在寺線はスマートーIC開通により交通量が増加傾向にある。道路拡幅等改良工事の県への要請は。
答 緑地への出入口については、将来的な用途が決まり次第、橋梁の幅員や構造を決定、県道側からの進入路を確保します。

この土地については芝生広場として整備を終え、現在、芝の養生を行っており、当面は緑地として活用していきたいと考えています。

市道桜川石塔線は、市

の道路整備アクションプログラムで整備検討路線に位置付けており、着手できる環境が整い次第、速やかに取り組んでいきます。

県道桜川西中在寺線は、



延伸工事が滞っている市道桜川石塔線

蓮花寺バイパスが23年に完了しています。しかし、東近江市区間は県の道路整備アクションプログラムに位置付けられていないため、早期着手は困難ですが、県に道路整備の要望を行います。

組織活性化審議会からの提言を受けて設置された、職員力向上委員会の取り組みの進捗状況と今後の見通しは。

問 職員の自発的な学習を支援するため、公務に役立つ資格を自主的に取得した場合や、職員の資質向上、地域課題の解決などを目的に職員グループが主催する研修会の開催経費に対し、2分の1を助成する制度を今年度からはじめました。

リーダーシップ研修や業務改善運動の取り組みなど、25年度の議論で方向性が決まっているものは、可能な事項から実施や試行をします。

今後の見通しとしては、人事考課制度の改善、昇任試験の導入検討や行政のプロ化など、未検討のものもありますが、全ての提言事項に対し議論を深め、職員力向上・組織活性化プランを今年度末までには取りまとめます。

自主防災の拡充を



市議会

西澤 善二

問 自治会の防災や減災機能を高め、自治会組織そのものの強化を図るために、まちづくり条例等の中で、自主防災の推進を取り上げるべきでは。

また、防災訓練の実施などの支援の拡充を。

答 まちづくり条例や現在策定中の市民協働推進計画は、各行政計画に横断的な計画として位置づけています。

防災については地域防災計画で定めています。推進計画の中に防災を取り上げることが必要か検討をします。

また、防災訓練については、自治会長会議や出前講座などで訓練実施の必要性を啓発するとともに、訓練内容についても指導しています。

問 集落ではドーナツ化が進んでおり、新たな場

所に消火栓が必要となってきた。

答 自治会から消火栓の増設や移設に関して要望が出された時には、予算化し、水道事業者に工事の実施を依頼します。

この場合、工事費の半分、上限25万円を控除した額を、要望された自治会に寄付をお願いしています。

今までに配水管布設工事を伴う高額な消火栓の設置要望はありませんが、個別の案件については検討します。

問 消火栓の設置支援の条例をつくり、支援すべきでは。

答 現在、条例はありませんが、消火栓設置要領

が

があります。

他市町では負担金として条例化されている所もありません。当市では考えていません。

今後は、新設や移設工事の支援に関して、水道事業所と十分協議を行います。

問 防火水槽が設置しやすいように、工事費用や地元負担の削減は。

答 設置の実施設計を市で行うとともに、コンクリート2次製品などを使用することで、工事費の削減に努力しています。

なお、防火水槽設置後の修繕に関しては、市で対応します。



地域住民による防災訓練